全国の都道府県看護協会が主催する学会・研究発表会の開催状況と課題に関する調査報告書

平成 30 年度

公益社団法人　岡山県看護協会　学会委員会
都道府県看護協会調査班

はじめに

公益社団法人岡山県看護協会
学会委員会 委員長
都道府県看護協会調査班 班長
杉浦 絹子

近年の少子高齢化の加速、在宅医療の推進、医療技術の急速な進歩、保健医療福祉に対する国民のニーズの多様化等を背景に、社会の看護職への期待はますます高まっています。看護学は実学と言われるように、臨床看護の質の向上には、既存の知識の上に新たな知見を積み重ね、それを臨床に応用していく日々の取り組みが求められます。臨床に根差した新たな知見を生み出すには、臨床で起こっている諸々の現象を看護の視点から解明する取り組みが必要です。

岡山県看護協会では、重点事業の一つに「看護の専門性の向上と実践能力の強化」を掲げ、教育研修事業の中で看護研究を実践する能力の向上に資する研修を行っています。加えて、平成 26 年度より、それまで分野別に年二回開催していた学会を統合し、会員が行う看護研究の成果発表および県内看護職の交流の場として、岡山県看護学会を毎年度一回開催しています。さらに、岡山県看護協会の全 8 支部（平成 29 年度までは 10 支部）においても、毎年度一回、看護研究発表会を開催しており、岡山県看護学会と同等かそれ以上の参加者数がみられる支部もあります。他の都道府県看護協会には、支部での研究発表の場は設けずに年一回の看護学会を盛大に開催しているところ、研究論文の公表の場として学術的意義を追及しているところ等があると聞いております。二重発表は倫理的に問題となることから、研究実施・発表者がより規模の大きい学会や専門分野の学会での発表を目指す風潮が強まっています。そのため、中小規模学会や地方学会では発表演題を集めるのに苦慮している現状も伝え聞きます。

年一回の岡山県看護学会開催初年度から 5 年目にあたる今年度は、当岡山県看護協会が第 49 回（平成 30 年度）日本看護学会―ヘルスプロモーション―学術集会を担当することから、発表・参加者の競合を避ける目的も兼ねて、本年度の岡山県看護学会の開催は見合わせることにいたしました。それと同時に、この機会に、岡山県看護学会の今後のあり方を検討することにいたしました。今回の調査は、その基礎資料を得るために実施したものです。

奇しくも、調査票発送直後に西日本豪雨災害が発災し、岡山県は 100 年に一度という甚大な被害を受けました。災害支援ナースの派遣をはじめ、全国の皆様から多くの温かいご支援を賜りました。本調査への回答の折にも、皆様より心温まるお見舞いのお言葉を頂戴いたしました。本報告書は、頂戴した回答を鋭意まとめたものです。多くの看護協会で同様の課題を抱え、方向性を模索している現状が窺われるものでした。本調査結果を貴協会の今後の活動のためにお役立ていただければ幸甚に存じます。

短期間の回答期限にもかかわらず、貴重なご回答をくださいましたことに深く感謝申し上げます。

末筆となりますが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

目　次

Ⅰ.　緒言 1

Ⅱ.　目的 1

Ⅲ.　方法 1

1. 調査期間
2. 調査対象
3. 調査方法
4. 調査内容
5. 分析方法
6. 倫理的配慮

Ⅳ.　結果 2

1. 配布回収状況
2. 会員数
3. 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の開催状況方法
1) 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等を開催の有無
2) 開催回数と開催月
3) 学会・研究発表会の構成内容
4) 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の演題数
5) 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の参加者数
6) 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の演題数の増減傾向と要因、対策
7) 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の抄録
8) 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の参加費
9) 道府県看護協会主催の学会・研究発表会等での既発表の取り扱い
10) 担当委員会の構成人数
11) 担当委員の役割
4. 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の開催状況 12
1) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の有無
2) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の構成内容
3) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の演題数
4) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の参加者数
5) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の演題数の増減傾向と要因、対策
6) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の抄録
7) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の参加費
8) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等での既発表の取り扱い

9) 担当委員会の構成人数
10) 担当委員の役割
5. 課題、今後の方向性 17
1) 課題
2) 今後の方向性

V. 総括 20

引用文献・URL 21

資料：調査票

Ⅰ．緒言

岡山県看護協会は、会員の看護研究の成果発表及び相互交流の場として、毎年度一回岡山県看護学会を開催している。過去 5 年間の演題数及び参加者数は減少傾向にある。支部主催の看護研究発表会も開催しているが、岡山県看護学会と同等かそれ以上の参加者数のある支部もみられる。他方、他県の看護協会には 100 題以上の発表演題と 1,000 人程の参加者がある学会 [1]や原著論文を掲載する国際標準逐次刊行物番号（International Standard Serial Number；ISSN）付き学会誌を発刊している協会もみられる [2]。二重発表は倫理的に問題となることから、より規模の大きい学会での発表を目指す風潮の中、小規模学会では発表演題を集めるのに苦慮している現状も伝聞される。そのためこの度、全国の都道府県看護協会の学会開催状況と課題について把握することにした。

本調査で得られた結果は、岡山県看護協会主催の岡山県看護学会のあり方を検討する参考資料とすることができる。また、他の都道府県看護協会で同様の課題を抱えている場合には、当該の看護協会にとっても有用な情報を提供することができる。

Ⅱ．目的

本調査の目的は、岡山県看護協会主催の岡山県看護学会のあり方を検討する参考資料とするために、他の都道府県看護協会主催の学会・研究発表会の開催状況および課題を把握することである。

Ⅲ．方法

1. 調査期間

2018 年 7 月～8 月

2. 調査対象

調査対象者は日本看護協会の全国都道府県看護協会名簿に記載された本県看護協会以外の 46 都道府県の都道府県看護協会の学会・研究発表会担当責任者とした。

3. 調査方法

2018 年 7 月から 8 月に、全国都道府県看護協会名簿に記載された本県看護協会以外の 46 都道府県の都道府県看護協会の会長宛に無記名自記式質問紙、依頼文書、研究協力同意書、研究同意撤回書を郵送して研究協力を依頼した。同時に協力の同意が得られる場合には会長から学会・研究発表会担当者に調査票記入を依頼してもらい、個別返信用封筒にて郵送回収した。

4. 調査内容

質問内容は、看護協会主催の学会・研究発表会及び、支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会について、それぞれの開催の有無、無いとの回答の場合には元々無いのか開催していたが止めたのかとその理由・経緯、有りの場合には年間開催回数、開催時期、直近 3 回の口演・示説の各演題数、参加人数、演題数・参加人数の増減の傾向と背景要因、演題数・参加人数維持・増加のための対策、参加費、既発表演題の取り扱い、担当委員会の役割、課題とした。

5. 分析方法

定量的データについては統計解析ソフト SPSS Statistic Ver.24.0 を用いて記述統計を求めた。定性的データについては、記述内容を意味内容のまとまりを分析単位として類似性と相違性に基づいてカテゴリー化し、カテゴリー表を作成して分析単位数を示し、度数を比較した。

6. 倫理的配慮

本研究は岡山県看護協会倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 2018-1）。対象者には、調査協力への自由意思の尊重、匿名性の確保、学術目的以外には用いないこと、機密性の確保、データ保存と管理方法を調査依頼書中に明記した。協力の意思のある協会担当者から研究協力の同意書の提出を得た。

Ⅳ. 結果

1. 配布回収状況

46 の都道府県看護協会会長宛に調査票を郵送し、42 部が回収され（回収率 91.3%）、すべて有効回答であった。

2. 会員数

会員数の範囲は 4,138 人から 51,994 人で平均は 15,535.8（±12,425.2）人であった。

3. 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の開催状況

1）都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等を開催の有無

開催している協会は 40、していない協会は 2、両協会とも過去開催していたが現在は開催しておらず、その理由・経緯は、「支部ごとに研究発表会を開催するため」「演題数も減少であったこと、県内の看護系大学、専門学校、看護協会、看護職が連携する形で看護研究会が設立されたことから」であった。

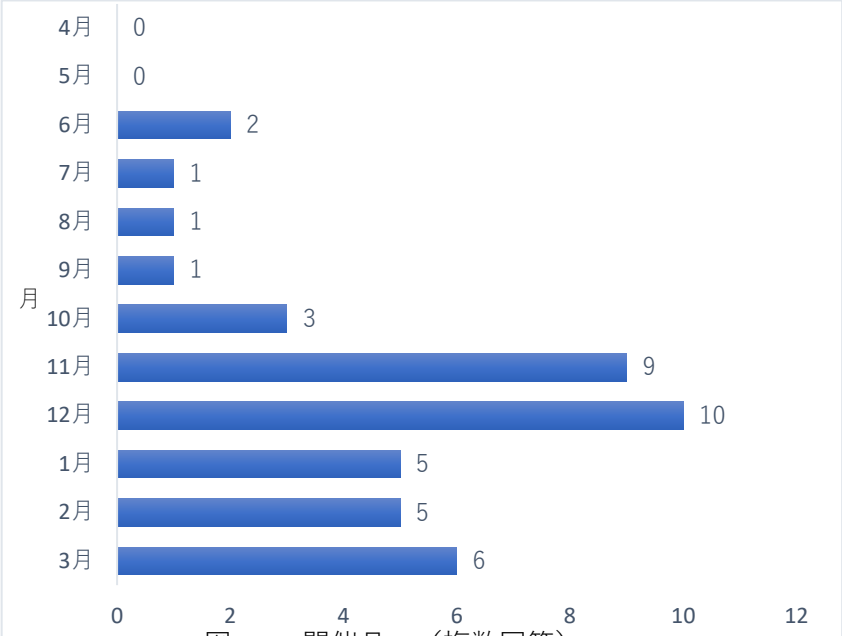

図1　開催月　（複数回答）

2）開催回数と開催月

開催していると回答したは 40、全て年 1 回開催していた。日本看護協会の学会の開催担当の年は開催していないと付記されている回答が複数みられた。開催月は多いものから 12 月 10、11 月 9、3 月 6、1 月 5、2 月 5、10 月 3、6 月 2、7 月 1 と 8 月 1 と 9 月 1 が同数の順であった（図 1）。

3) 学会・研究発表会の構成内容

該当するものすべてに〇を付けてもらったところ、「研究口演発表」38 と「研究示説発表」38 と「特別講演」38 が同数で最も多く、次いで「臨床実践口演発表」19、「臨床実践示説発表」18、「シンポジウム」14、「ランチョンセミナー」13、「教育講演」7、と看護研究に関するミニ講義・相談・支援」7 が同数、「看護協会の活動紹介の展示」3 と「専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了者による相談コーナー」3 が同数、「講評」2 と「看護用具の展示」2 が同数、の順であった（図 2)。これらを含む「その他」として回答された記述を表 1 に示す。

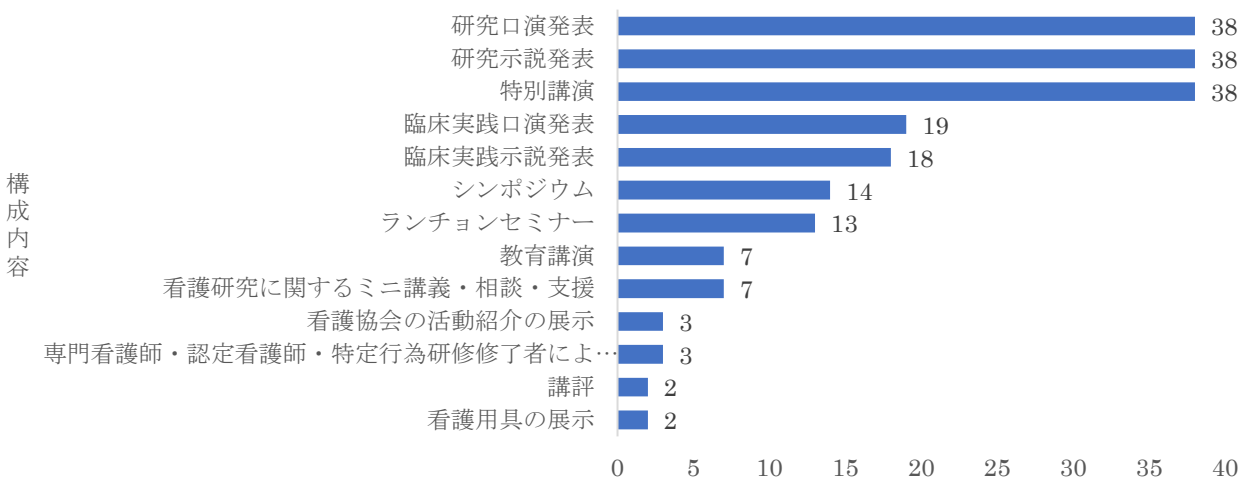

図2　構成内容　（複数回答）

表 1　学会・研究発表会の構成内容　「その他」の記述

・看護研究支援
・看護研究ミニ講座
・看護研究ミニ支援講座
・ミニレクチャー
・論文作成相談コーナー
・小セミナー「論文作成のポイント」
・文献検索についてのセミナー・相談会
・特定行為研修終了者 NP/専門看護師による活動報告・相談コーナーを設けた
・認定看護師等による相談コーナー
・専門看護師、認定看護師によるナースカフェの開催
・協会の組織や委員会活動、災害支援の状況など周知・啓蒙のため、パネル展示など同時に行った
・看護協会の紹介コーナー
・看護用具創意工夫の発表
・知恵を絞って作りました展－こんなのあったらいいな－
・前年度優秀演題表彰式
・業者展示
・大学院紹介ブース
・交流集会
・市民公開講座
・特別企画　メインテーマから想起し、看護職支援に向けたテーマで企画しています
・平成 29 年までランチョンセミナーでしたが、平成 30 年より企業セミナーにしました（ランチョン希望企業が減少のため）
・口演数が少ない年度には、セカンドレベル看護管理実践報告会で既に発表したものであるが、1 枠（4 題）を入れた時があった
・毎年、前年度の評価及び当該年度のテーマやコンセプト等を基に企画をするため、内容構成は多岐にわたる

4）都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の演題数

(1) 直近

口演数の範囲は 6～50、平均値は 19.2（±9.6）、最頻値は 8 であった。示説数の範囲は 0～46、平均値は 15.1（±11.5）、最頻値は 0 であった。

(2) 直近の前

口演数の範囲は 8～79、平均値は 17.5（±13.0）、最頻値は 10 であった。示説数の範囲は 0～42、平均値は 14.0　（±10.1）、最頻値は 6 であった。

(3) その前

口演数の範囲は 7～55、平均値は 15.0（±10.0）、最頻値は 13 であった。示説数の範囲は 0～44、平均値は 15.4 （±12.1）、最頻値は 8 であった。

5） 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の参加者数

直近の参加者数の範囲は 107～1,617 人、平均値は 502.6（±332.3）人、直近の前の参加者数の範囲は 146～1,743 人、平均値は 499.4（±329.0）人、その前の参加者数の範囲は 107～1,913 人、平均値は 526.8（±354.9）人であった。

6） 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の演題数の増減傾向と要因、対策

(1) 演題数の増減傾向

「横這い」26、「減少傾向」11、「その他」3 で、「増加傾向」とする回答はなかった。「その他」の記述は「変動している」との意味内容の回答であった（図 3）。記述を表 2 に示す。

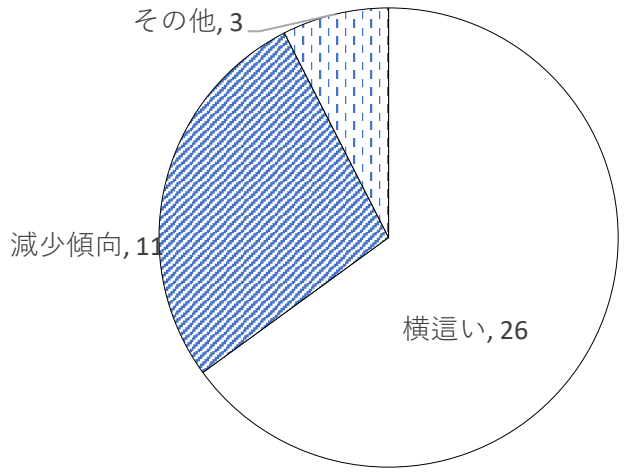

図3　都道府県看護協会主催の学会・研究発表会の演題数の増減傾向

表 2　増減傾向　「その他」の記述

・平成 28 年度までは横這い傾向、平成 29 年度は減少。
・4 年前より発表演題数が減少傾向にあり、昨年度より年間研修計画の中で看護研究の研修企画とともに大学教授による看護研究相談を受けることにした。今年度も実施している。平成 29 年度は平成 28 年度に比べ演題数が 1.7 倍に増えた。
・減少傾向にあったが、昨年は増加した。

(2) 要因

横這い傾向の要因について回答が得られた 26 協会の自由記述を質的帰納的に分析した結果、10 のコアカテゴリーが抽出され、多いものから「研究発表の場の増加」14、「看護研究実施に向けた意識と支援体制が課題」11、「二極化する臨床における看護研究への取り組み状況」5、「研究初心者や学生にとっては有効な研究発表の場」4 と「倫理審査や演題受理の厳しさ」4 が同数、「支部・地区と県看護学会との発表機会の重複」2、他の順であった（表 3）。

表3　横這い傾向の要因

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	コードあるいは記述
研究発表 の場の増加（14）	専門学会や全国学会など発表の場の増加（13）	専門学会や全国学会など発表の場の増加（10）	・専門学会の増加 ・施設内発表後に全国学会等での発表を行っている ・専門分野の研究学会が増え、全国規模の学会へ応募することが多くなった ・学会を含め研究発表をする場が増えている ・他の学会で発表している ・また看護協会等々他の学会に発表をすることが増えたことが考えられる ・全国学会への発表が増えている ・全国規模の学術集会、学会等に発表する施設が多くなってきたことが要因 ・専門分野の学会が多く、発表する機会が増えている ・学会や学術集会等多岐にわたって発表する機会が増えた
		（専門、全国）学会数の増加による県での発表の減少（3）	・多数の学会が開催されており発表する機会が増えてきたことが考えられる ・専門学会など学会の数が多くなり、県の学会への申込が減少傾向。 ・看護に関する学会発表の場が増えたことにより県協会への発表題数が減少していると考える
	多職種連携による共同研究発表の場の増加（1）	多職種連携による共同研究発表の場の増加（1）	・多職種による専門領域の研究発表会が増えてきている
看護研究実施に向けた意識と支援体制が課題(11)	施設内の看護研究支援体制が整っていない（8）	施設内における看護研究の希望者数の減少（1）	・施設内で看護研究の演題数が減っている。（割り当てから希望者へ）
		現場における時間や人員不足による看護研究の取り組みの困難さ（難しさ）（3）	・職場環境改善で看護研究を職務とすると時間的に無理がある。 ・看護研究の必要性はわかっているが、出せない現状がある。人員、時間に余裕がない。職場が厳しい。 ・現場では、日々の業務に追われ研究する時間的ゆとりがなく論文作成までの期間を長くしている施設もあることが要因
		指導・支援者の不足（2）	・施設の指導者が育っていない。 ・身近な指導者の育成不十分 ・小規模施設では指導者の不足
		倫理委員会が整備されていないなど施設内の研究支援体制が整っていない(2)	・倫理会議が整っていないため研究に取り組むことが困難 ・施設内に研究や支援体制が整っていない所もある　また倫理審査委員会を設けていない等
	看護職員の看護研究への意識向上が課題（3）	看護職員の看護研究への意識向上が課題（3）	・研究への取り組みが、病院ではグループ研究が多く一年ごとに研究者が交代するケースが多い ・一人一人の研究に対する実力の向上が図れていない現状がある ・それぞれの研究課題を持ち実践の中に看護研究が根付いていくことが不十分である
二極化する臨床における看護研究への取り組み状況（5）	看護管理者や病院規模、研究支援体制の状況などで二極化する看護研究への取り組み（5）	（看護研究に対する？県看護研究発表会？に対する）看護管理者の意識の差	・看護管理者の意識の差
		大病院と中小規模病院の看護研究取り組みの二極化	・看護研究への取り組み体制が二極化していると感じる。大病院…中小規模病院…
		教育体制が整備されている大病院は全国学会にエントリー	・教育体制が整備されている大きな病院は、県内ではなく全国レベルの学会にエントリーしている
		中小規模病院は、看護研究サポート体制の不十分さゆえ研究の取り組み自体が困難	・中小規模病院では、看護研究サポート体制が十分でなく、研究そのものの取り組みが進んでいない傾向にある
		倫理委員会の承認が規定されたことによる委員会のない施設のハードル（1）	・また、「倫理委員会の審査を受け承認を得ること」と規定しており、委員会のない施設にとってハードルとなっていると感じる
研究初心者や学生にとっては有効な研究発表の場（4）	研究初心者や学生にとっては有効な研究発表の場（4）	研究初心者が全国発表のための登竜門的役割（3）	・研究発表の登竜門の役割として位置づけられている（認識されている） ・この学会で初めて発表するものも多い ・実力をつけて全国発表へつなげていく人が多い
		授業の一環として(学生の)の参加は増加（1）	・授業の一環としての学会への参加は増えている
倫理審査や演題受理の厳しさ（4）	倫理審査や演題受理の厳しさ（4）	倫理審査や演題受理の厳しさ（4）	・演題受理条件が厳しすぎる ・倫理審査の厳しさ ・各施設の倫理審査項目が厳しくなったこと ・倫理に関する取扱いが大変になったことにより研究を行うことが面倒になっている
支部・地区と県看護学会との発表機会の重複（2）	支部・地区と県看護学会との発表機会の重複（2）	地区で発表会での研究発表会を開催（1）	・地区支部実践報告会や研究発表会を行っている
		支部と県看護学会での発表会の重複（1）	・支部でも発表会を行っているため同じ協会内で発表の場が多い
学会での質疑応答が下活発・非発展的（1）	学会での質疑応答が下活発・非発展的（1）	学会での質疑応答が下活発・非発展的（1）	・質疑応答が活発にされなくなってきた。発展的でない
固定されつつある発表施設（1）	固定されつつある発表施設（1）	固定されつつある発表施設（1）	・演題応募をする施設が固定されつつあるため
研究への取り組みが減少（1）	研究への取り組みが減少（1）	学生発表を含む研究数の減少（1）	・学会については研究自体が減り、ここ2年は学生の発表はない
全演題を採択に向けた研究支援（1）	全演題を採択に向けた研究支援（1）	施設と協力して全国学会を踏まえた抄録執筆支援を行い、登録演題すべてを採択している県看護学会	・施設と協力して全国学会を踏まえた抄録執筆支援を行い、登録演題すべてを採択している県看護学会
発表演題応募数が程よい（1）	発表演題応募数が程よい（1）	1日開催学会として程よい発表演題応募数	・1日の開催なので、演題数としてはちょうどよい数

減少傾向の要因について回答が得られた 11 協会の自由記述を質的帰納的に分析した結果、7 のカテゴリーが抽出され、多いものから「研究発表の場の増加」16、「臨床看護師の研究の取り組みの減少」2、「演題登録が論文形式であり、発表者も指導者も負担」2、他の順であった（表 4)。

表4　減少傾向の要因

カテゴリー	コードあるいは記述
研究発表の場の増加（16）	・ 発表の場が増加 ・ 他の学会で発表 ・ 抄録で提出して参加できる日本看護協会など、全国学会へ申し込む会員の増加 ・ 学会が増え、他に申し込む ・ 看護に関する学会が増加 ・ 全国的に多様な学会が増加 ・ 学会発表の機会が多く、県看護協会への応募が減少 ・ 看護職が参加する学会が増加 ・ 全国的に学会の開催が増加 ・ 日本看護学会（日本看護協会・都道府県協会主催）についての演題採択率が上昇 ・ 「県学会に応募予定であったが、日看協学会で採択された」という話 ・ 施設内発表したものはほぼ全国学会で発表されている ・ 県協会で発表した研究は、他の学会で発表できないため、全国・専門分野の学会で発表 ・ 専門分野で他団体主催の学会に参加 ・ 専門分化された全国学会に参加（発表）しているため ・ 関係団体での学会に参加（発表）しているため
臨床看護師の研究取り組みの減少（2）	・ 煩雑化する看護現場で看護研究に取り組む看護師が減少 ・ 看護師の研究への意識低下
演題登録が論文形式であり、発表者も指導者も負担（2）	・ 演題の提出を論文形式（集録原稿）としており、選考の際、要修正がほとんどのため、提出までに修正の時間がかかり、発表者も指導者も負担 ・ 収録集原稿枚数を規定で3枚としており、まとめる作業に時間を要する
院内発表後の演題は発表不可（1）	・ 院内で発表した研究を県協会に応募できないため
日本看護学会と県学会が類似（1）	・ 日本看護学会と県学会のあり様が類似している所もあり、その地区からの発表が少ない
査読が厳しい（1）	・ 査読が厳しい
日本看護学会の県内開催との重複によって演題数が変化する（1）	・ 日本看護学会担当の年は演題登録が少なかったが、年度により増減がある

(3) 対策

応募演題を増やすための対策について回答が得られた 39 協会の自由記述を質的帰納的に分析した結果、13 のカテゴリーが抽出され、多いものから「広報活動」44、「研修・指導の充実」23、「学会の内容の工夫・充実」12、「発表基準の緩和」10、「申し込み期間の延長、再募集」5、「抄録の簡素化」3 と学会の位置づけ変更」3 と「選考方法変更」3 が同数、「学会参加者への優遇対応」2 と「web 申し込み導入」2 と「倫理委員会の設置」2 が同数、他の順であった（表 5)。

表5　対策

カテゴリー	サブカテゴリー	コードあるは記述
広報活動(44)	チラシ・ポスター作製配布、HP掲載(24)	・ポスター、チラシを会員施設に発送(7) ・来館した方へのチラシを配布 ・協会ホームページ上で広報(7) ・広報紙の活用 ・教育研修計画、定期発送物を利用した広報 ・E-mailを活用したPR ・協会会館内でデジタルデバイスによる広報 ・スマホで広報 ・UMINに情報を掲示 ・文書等での広報強化 ・募集案内文章を早めに発送 ・来館者へのパワーポイントを活用した紹介
	研修会や会議で周知(14)	・総会、理事会、地区長会、施設代表者会等で広報(7) ・研修受講生に周知(6) ・来館者へのチラシ配布
	施設へ直接依頼(4)	・県内施設の管理者に演題応募について依頼(3) ・募集期間が過ぎて演題数が少ない場合、研修担当が直接病院看護部長へ電話で依頼
	学生へのPR(2)	・看護学生に参加を促している ・県内看護学校への文書発送
研修・指導の充実(23)	研修会・講座の開催(18)	・一般研修「看護研修を始めよう」で集合研修を再開した ・専門研修３コースの開催 ・集合研修を受講：看護研究（基礎編、実践編） ・抄録の書き方・スライドの作り方に関する研修 ・研究に関する研修の開催 ・演題募集を条件に研究計画書の作成から現行の完成までを指導する研修を2年間実施 ・看護研究の基礎、データの収集、分析、統計、まとめ方、プレゼン、指導について、それぞれ学べる研修体系とした ・学会委員として研究計画書研修会を実施 ・協会の教育計画に看護研究に取り組む能力支援に関連した研修を組んでいる ・30年度より指導者の研究指導力向上のため「看護研究活動の支援」研修を企画した ・H26より3年間看護研究継続サポートプログラム（5回シリーズ）を開催し、看護研究に必要な知識、研究計画書の作成、研究への取り組みの助言を行った。 ・H29より看護研究を支援・指導する者を対象に看護研究指導者サポートプログラム（5回シリーズ）を開催している ・一般の研修会で研究の個別指導（計5回） ・教育セミナーとして「看護実践と研究的思考の必要性」「研究者と支援者の立場からの看護研究の進め方」「失敗しない看護研究計画書」など ・「文献検索をやってみよう」体験型講座 ・研究に関する相談コーナーを設置 ・「演習で学ぶ看護研究」研修（4回シリーズ）開催 ・一般研修で研究に関するテーマを開催している
	指導・相談による支援(3)	・グループ指導 ・テーマの絞り方から抄録作成まで個別指導 ・個別相談会を実施して発表の支援を実施
	受講条件の設置(1)	・研修受講条件　次年度学会発表を考えている者
	研修会時期の変更(1)	・看護研究の基礎研修の時期を６～７月にシリーズで3回行っていたが、次年度にいかせるように平成30年度より10～1月に変更
学会の内容の工夫・充実(12)	基調講演、講演内容(3)	・基調講演を行っている ・講演会の選定 ・学会の構成の見直し
	ランチョンセミナー、交流セッション(3)	・ランチョンセミナーの開催など新しい取り組みを行っている（学生は対象外） ・ランチョン、交流セッションなど企画し周知を図る ・H29から認定看護師による交流集会開催
	講座、相談コーナー設置(3)	・学会の中で看護研究論文作成相談コーナーを設置した。 ・看護研究学会によって抄録作成講座の時間を設けた ・学会内で研究会発表するための支援講座の開催
	テーマの選定(2)	・魅力ある学会テーマの選定 ・タイムリーで関心の高いテーマにする
	講評実施(1)	・地区支部での看護研究発表会時講評をおこなっている
発表基準の緩和(10)	重複発表可(7)	・施設内・地区支部で発表したものを応募可 ・地区部会の研究発表会演題を学会での発表に向けた依頼 ・全国学会にすでに発表したもの可 ・支部会で発表したもの可 ・支部の学会発表を県協会へシフトする働きかけ ・応募規定の見直し（支部で発表したものは可）
	実践報告可(3)	・実践報告を取り入れる ・実践報告の発表を可とした(2)
申込み期間の延長、再募集(5)	申込み期間の延長、再募集(5)	・申込期間を延長(2) ・演題募集の期間を延長(2) ・再募集実施(1)
抄録の簡素化(3)	抄録の簡素化(3)	・集録集なので平成29年から1～4枚に変更 ・抄録字数を1000字へ変更 ・投稿しやすい抄録（2000字）での受付とした
学会の位置づけ変更(3)	学会目的変更(2)	・目的を身近なものにする ・情報を共有する
	学会名の変更(1)	・学会から報告会（集会）へ名称変更
選考方法変更(3)	選考方法変更(3)	・論文から抄録選考に変更 ・集録にて選考を実施 ・委員（大学研究者、専門看護師）により査読選考を実施
学会参加者への優遇対応(2)	ポイント付与(1)	・学会参加によるポイント付与
	表彰(1)	・優秀賞授与について検討
web申込み導入(2)	web申込み導入(2)	・H29 からオンライン投稿導入 ・インターネットでの応募可
倫理委員会の設置(2)	倫理委員会の設置(2)	・協会内に倫理審査委員会の設置を検討する方向 ・看護協会内に「看護研究倫理審査委員会」を設置した。
会場の配慮(1)	会場の配慮(1)	・会場を大きな駅の周辺で開催

7) 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の抄録

「ISSN なし製本」29、「手刷り」5、「ISSN 付き製本」4、であった（図 4)。

8) 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等の参加費

会員、非会員とも当日参加費は全協会「有料」であった。会員の事前申し込み参加費を「無料」としている協会が 1 あった。学生の参加費については、「事前参加申し込みの場合には無料」である協会が 4、「当日無料」としている協会が 2 あった。参加費の平均値、範囲、最頻値を表 6 に示す。

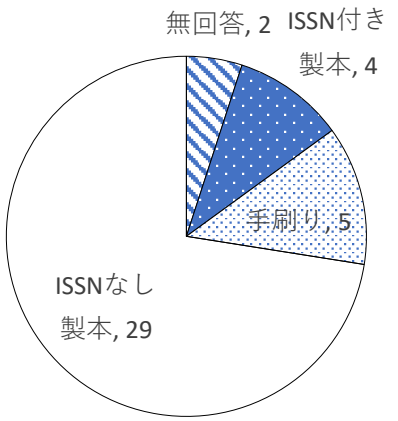

図4　都道府県看護協会主催の学会・ 研究発表会の抄録

表6　有料との回答の参加費の平均値、範囲、最頻値　（円）

	会員		非会員		学生	
	事前(n=39)	当日(n=36)	事前(n=39)	当日(n=36)	事前(n=32)	当日(n=28)
平均値(±SD)	2,938.5(±982.1)	3,390.9(±1,403.5)	5,597.1(±2,179.6)	5,989.3(±2,538)	1,327.4(±1,324.3)	1,614.1(±2,165.3)
範囲	1,000～5,400	1,000～7,000	1,500～10,930	1,500～12,000	200～8,000	500～12,000
最頻値	3,000	3,000	6,000	5,000	1,000	1,000

9) 都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等での既発表の取り扱い

「所属施設外で発表しているもの（研究発表も実践報告も）全て不可」23 が最も多く、次いで「他の学会・研究発表会で発表しているもの（研究発表も実践報告も）全て不可だが、本協会内の支部・地区・地方部会主催の研究発表会で発表しているものは（研究発表も実践報告も）全て可」9、「規定なし」2、「その他」2、「所属施設外で“研究発表”として発表しているものは不可（実践報告は発表可)」1、「他の学会・研究発表会での既発表も可」1（図 5）であった。「その他」の記述は表 7 のとおりである。

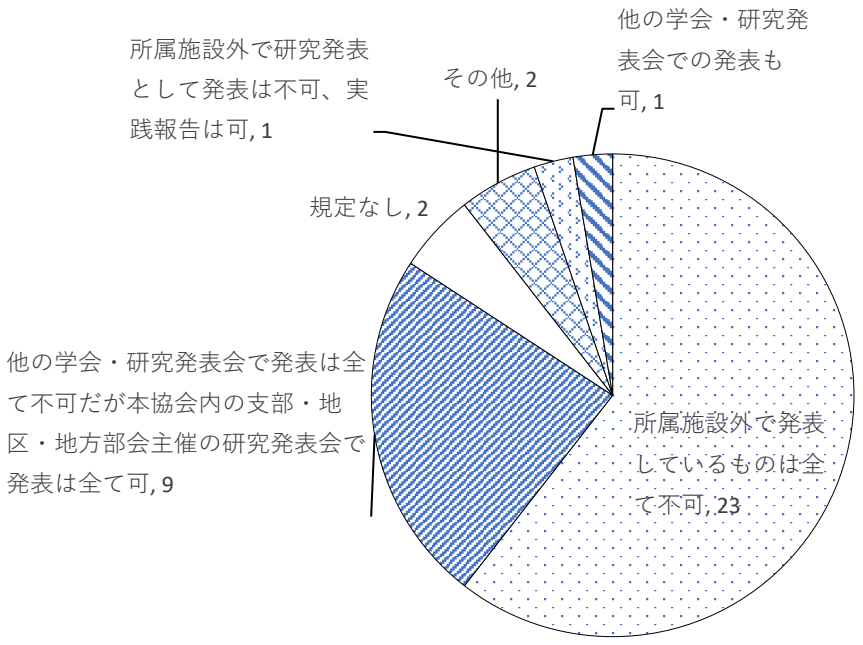

図5　都道府県看護協会主催の学会・研究発表会等での既発表の取扱い

表 7　既発表の取り扱い「その他」の記述

・未発表のものであること。他の学会・研究会及び印刷物等において投稿並びに公表していないもの。たとえ施設内などの限局された場でのみ発表された研究であっても、研究内容が、リポジトリ（電子公開書庫）、施設や個人等のホームページに掲載されている、施設で作成した広報や冊子等に掲載され、施設外に配布されている場合は、公表されているとみなし演題登録ができません。学会委員会が公表されている演題であると判断した場合、いかなる時期にあっても登録及び採択を取り消します。取り消しに伴い、発生した抄録集の訂正等に要する費用は、原則として筆頭権者に負担して頂きます。

・倫理的に配慮された研究内容であり、その旨が本文中に記載されていること。

・演題登録期間内にオンライン登録が完了したものであること。

・日本国の看護職の免許取得後に行われた研究であること。他の学会・研究会で発表したものはすべて不可。また、院内で発表したもので抄録を印刷及び配布しているものは不可としている。

・発表済みでも、追加、修正を依頼し、バージョンを変更して発表してよい。

10) 担当委員会の構成人数

担当委員会の構成人数の範囲は 5～31 人、平均値は 10.1（±5.5）人、最頻値は 6 人であった。

11) 担当委員の役割

担当委員の役割として該当するものすべてに〇を付けてもらった。 多いものから、「特別講演・教育講演の講師を選定」34、「司会・進行」31、「当日の会場係」31、「査読」30、「受付」26、「座長選定」26、「募集活動」17、「抄録完成指導」15、「査読者選定」12、「座長」11、「司会者選定」7、「講評者選定」6、「講評」5、「発表スライド作成指導」4 と「プレゼンテーション指導」4 が同数、「特別講演・教育講演等の講師」3 の順で、「その他」は 13 であった。「その他」の記述の中で多かったものは「広報」4 であった（図 6)。広報を含む記述を表 8 に示す。

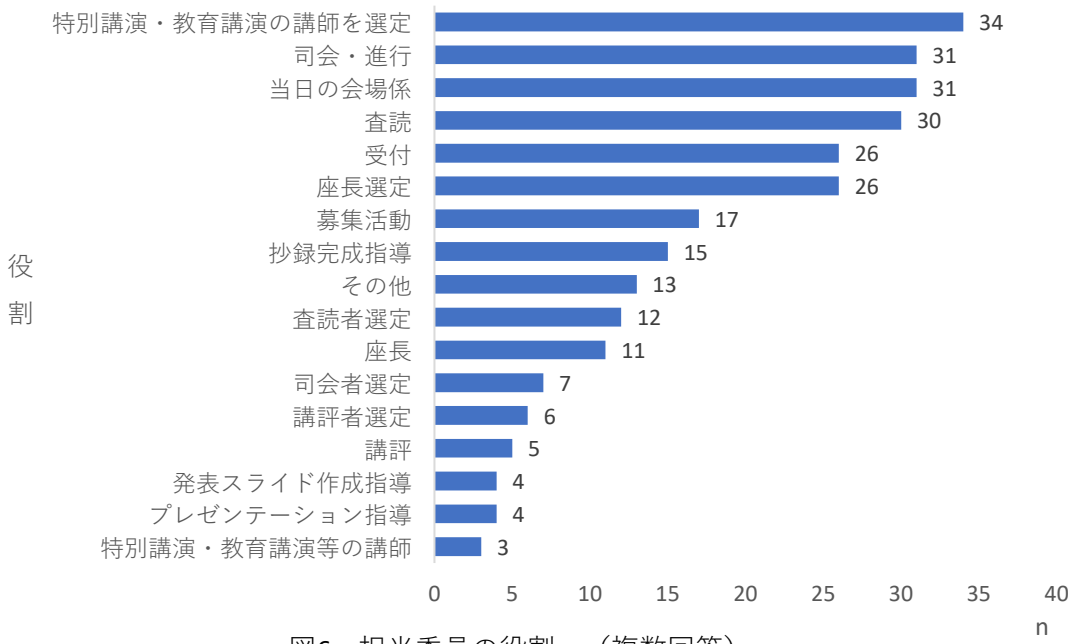

図6　担当委員の役割　（複数回答）

表 8　委員の役割　「その他」の記述

・広報
・学会ポスター、ちらしについての検討、議決
・ポスター原案検討
・ポスター作成
・企画（シンポジウム、特別講演）についての検討、議決
・企業展示、広告についての議決
・実施要綱の見直し
・学会発表支援員制度の検討
・学会マニュアルについての検討
・発表までの集録完成指導
・各演題の講評はないが、会全体の講評を委員長が行う
・特別講演・教育講演等の講師の選定に関しては協会に一任する場合もある
・講師の接待は、委員所属の示説のみ。県下全般には会長・理事が行う
・グループで研究指導を受けるメンバーとのテーマについてのフリートーク（1 時間程度）
査読委員打ち合わせ会の開催
・アンケート集計・分析
・次年度のメインテーマの検討
・演題登録時に原稿提出としているため、原稿作成指導をしている（抄録はなし）
・学会テーマ（案）の作成
・看護研究指導者サポートプログラム研修会の企画・運営・評価
・奨励賞の選定
・閉会の挨拶
・発表までの抄録完成指導は県内 4 大学に依頼し論文指導を受けている

4. 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の開催状況

1) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の有無

支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会を「開催している」22、「開催していない」19、「支部・地方部会を持っていない」1 であった（図 7）。

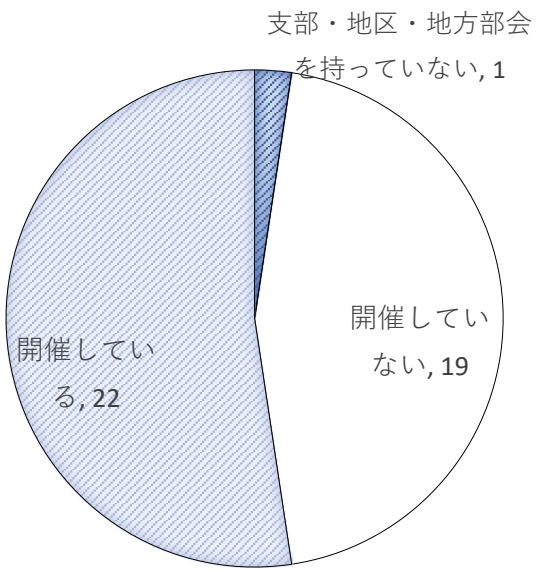

図7　支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の開催状況

2) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の構成内容

該当するものすべてに〇を付けてもらったところ、多いものから「研究口演発表」16、「臨床実践口演発表」13、「特別講演」8、「研究示説発表」5、「臨床実践示説発表」4、「教育講演」4、「シンポジウム」3、「ランチョンセミナー」1 の順であった（図 8）。「その他」5 の記述は表 9 に示す。

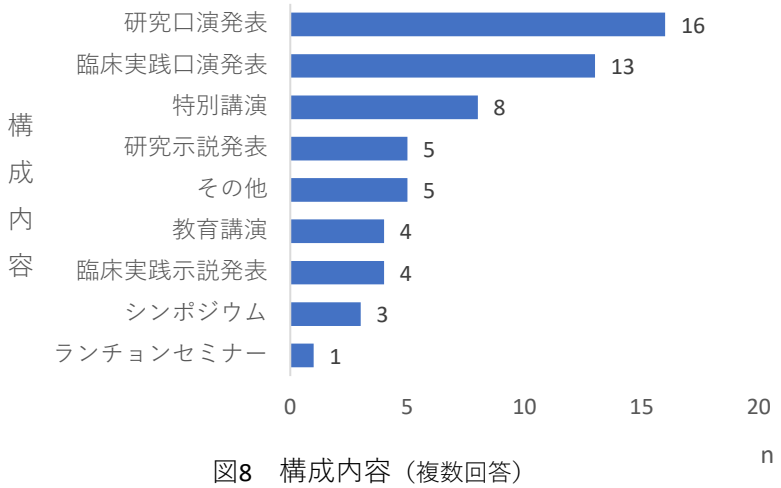

図8　構成内容（複数回答）

表 9　支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の構成内容　「その他」の記述

・パネルディスカッション
・講評
・看護研究ミニ講義
・講演
・各支部における地域包括ケアシステムの取り組み、看護連携
・病院・介護施設・訪問看護ステーションにおける JNA ラダーとの取り組み
・県看護協会事業報告
・支部ごとに異なっている
・詳細データなし

3)　支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の演題数

(1)直近

口演数の範囲は 4～73、平均値は 27.1（±21.1)、最頻値は 4 であった。示説数の範囲は 0～77、平均値は 9.67（±25.3)、最頻値は 0 であった。

(2)直近の前

口演数の範囲は 5～75、平均値は 27.5（±22.9)、最頻値は 5 であった。示説数の範囲は 0～4、平均値は 0.5（±1.1)、最頻値は 0 であった。

(3) その前

口演数の範囲は 0～66、平均値は 24.2（±19.8)、最頻値は 6 であった。示説数の範囲は 0～6、平均値は 1.34　（±2.4)、最頻値は 0 であった。

4)　支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の参加者数

全ての支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の直近の参加者の合計人数の範囲は 50～938 人、平均値は 362.0（±287.1）人、直近の前の参加者数の範囲は 49～962 人、平均値は 385.5（±302.8）人、その前の参加者数の範囲は 0～904 人、平均値は 401.6（±321.1）人であった。

5) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の演題数の増減傾向と要因、対策

(1) 演題数の増減傾向

「増加傾向」1、「横這い」16、「減少傾向」3、「その他」1 で、その他は「支部によって異なる」であった（図 9）。

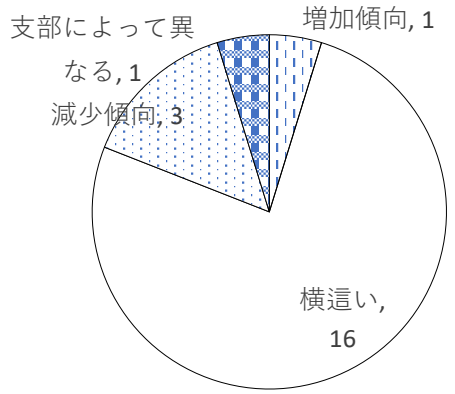

図 9　支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の演題数の増減傾向

(2)　要因

15 協会（増加要因 1 協会、横這い要因 11 協会、減少要因 1 協会、支部・地方・地方部会によって異なる 1 協会）から回答が得られた。それらの記述を表 10 に示す。

表10　要因

増減傾向	要因
増加	・研究のみでなく、実践報告の可能であることをアピールしたことで担当調整に関することや、特定行為研修受講者の報告等があり増えた
横這い	・発表数をほぼ７～８題と決めているため ・地域包括ケアを推進するために、地区支部部門で看看連携と、他職種連携、協働、ケース会議等の機会が増加しそれが看護職の意義を高めたため、増減の変化が少ないと考えられる ・発表演題数は今の数で時間的にも十分である ・参加する施設が固定されつつある ・地区支部活動であり毎年ほぼ同規模で実施している ・施設で発表数を割りあてているため ・支部の研究発表会の前に自施設の発表会で発表しているため、次は全国学会へ出す事例が多い ・研究発表会のレベルとしては、研究の体をなさないものや事例報告、業務改善にとどまるもののエント ・地区の看護職員数にも限界があり、そのうち、発表となると同じような方々が行っている現状がある ・看護の質を上げていくには研究が必要だという認識は持てるようになったが、取り組むまでは大変という思いがある ・研究に取り組む施設がほぼ同じで、提出演題数が変わらないと思われる ・自施設や近隣施設の発表があり、興味をもって参加できる
減少	・他団体主催の学会に発表しているため ・発表の場が多岐にわたる
支部・地区・地方部会による	・倫理審査のハードルが高くなっている ・時間確保が難しい ・研究の指導者がいない ・小規模施設への募集活動 ・講評講師の丁寧なコメントへの満足感

(3)　対策

演題応募を増やすための対策に関する自由記述式回答を分析した結果、5 のカテゴリーが抽出され、多いものから「広報活動」10、「研修・指導の充実」2「発表基準の緩和」1 他の順であった（表 11）。

表11　対策

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
広報活動(10)	施設への直接依頼(4)	・各施設への呼びかけ ・施設の管理者に直接依頼 ・地区支部会で各施設に働きかけ ・応募が少なかったとき支部によっては個別に働きかけ
	会議で周知(3)	・施設代表者会議等で呼びかけ ・看護研究発表会委員を通して呼びかけ ・研究検討委員会で声掛け
	支部ごとに依頼(2)	・地区支部ごとに連絡委員会などにより演題応募の呼びかけ ・地区会員会の中でPR
	早目に周知(1)	・早めの周知
研修・指導の充実(2)	研修会の開催(1)	・看護研究活動支援のための抄録の書き方研修会を開催
	指導・支援(1)	・初めての人（グループ）にも取り組めるよう研究支援
発表基準の緩和(1)	実践報告可(1)	・実践報告でもよいというアプローチ
検討中(1)	検討中(1)	・理事会で検討中
一時中止(1)	一時中止(1)	・本年度は支部主催の看護研究発表会は開催しない

6)　支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の抄録

「ISSN なし製本」4、「手刷り」15、「その他」1、「ISSN 付き製本」はなかった（図 10）。

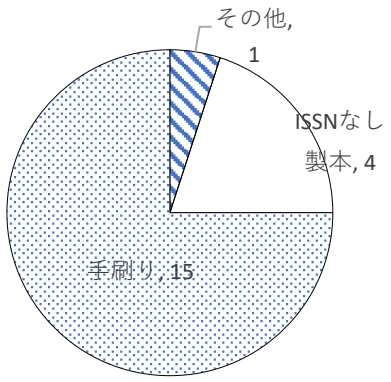

図 10　支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の抄録

7)　支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等の参加費

会員、非会員、学生いずれも事前申し込み、当日参加とも参加費を「無料」としている協会が多かった。「有料」の場合の参加費の平均値、範囲、最頻値を表 12 に示す。

表12　有料との回答の参加費の平均値、範囲、最頻値　（円）

	会員		非会員		学生	
	事前(n=3)	当日(n=3)	事前(n=8)	当日(n=6)	事前(n=2)	当日(n=2)
平均値(±SD)	1,500(±500.0)	1,500(±500.0)	1,562.5(±1522.2)	1,583.3(±1722.5)	500(±0.0)	500(±0.0)
範囲	500～2,500	500～2,500	500～5,000	1,500～12,000	500～500	500～500
最頻値	500	500	500	500	500	500

8) 支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会等での既発表の取り扱い

「規定なし」7 が最も多く、次いで「他の学会・研究発表会で研究発表として発表しているものも発表可」4 であった。「施設外で発表しているもの（研究発表も実践報告も）全て発表不可」は 1 あった。「その他」5 のうち「支部によって異なる」との記述が 4 であった。

9) 担当委員会の構成人数

担当委員会の構成人数の最小値の範囲は 2～29 人、平均値は 6.6（±6.8）人、最頻値は 2 人であった。最大値の範囲は 3~15 人で、平均値は 7.2（±3.6）人、最頻値は 5 人であった。

10) 担当委員の役割

担当委員の役割として該当するものすべてに〇を付けてもらった。 多いものから、「当日の会場係」18、「募集活動」17、「受付」16、「司会・進行」16、、「講師の接待」14、「査読」10、「座長」9 と「特別講演・教育講演等の講師を選定」9 が同数、「講評者選定」8、「抄録完成指導」7、「座長選定」5、「発表スライド作成指導」3、「査読者選定」3、「司会者の選定」2 と「プレゼンテーション指導」2 と「講評」2 が同数、「特別講演・教育講演等の講師」1、「その他」2 の順であった。「その他」の記述は「アンケート集計」「司会・進行や受付等については、支部によって異なる」であった（図 11）。

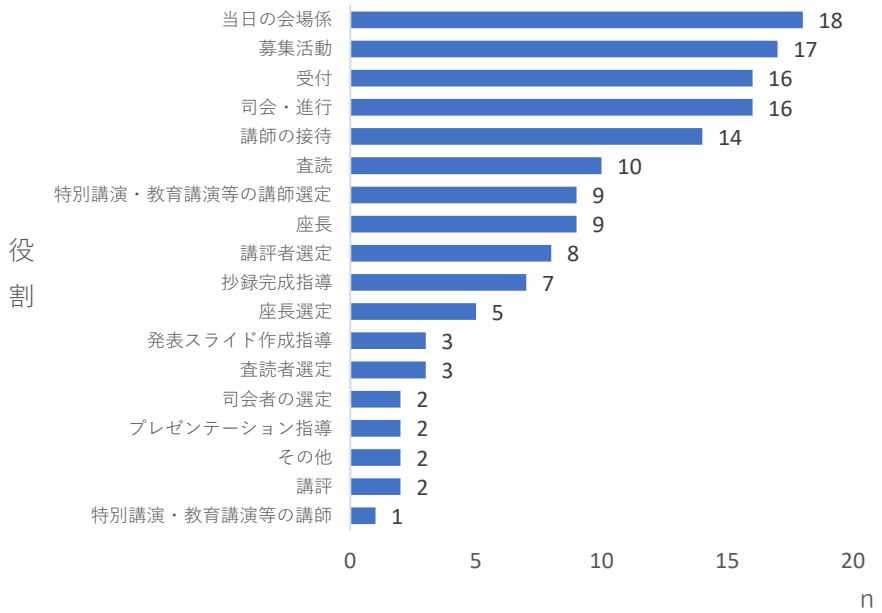

図11 担当委員の役割 （複数回答）

5. 課題、今後の方向性

自由記述にて回答を求めた。記入のみられた 31 協会の記述を課題と今後の方向性に分けて質的帰納的に分析した。

1) 課題

課題に関する自由記述式回答を分析した結果、8 のカテゴリーが抽出され、多いものから「看護研究への支援と環境づくり」11、「応募演題・参加者の減少」7、「査読方法の検討」6 と「学会運営方法」6 が同数、「倫理的事項を含む募集要項の整備」5、「学会委員の意識と負担感」4、「学会のあり方や今後の方向性の検討」3、「県学会と支部・地方・地方部会主催の研究発表会の位置づけの明確化」2 の順であった（表 13）。

表13　課題

カテゴリー	サブカテゴリー	コードあるいは記述
看護研究への支援と環境づくり(11)	看護研究指導者の指導力の向上(2)	・看護研究の指導（臨床での研究推進のための指導など）が各々の病院等で悩んでいるところが多く、研究担当などとして割り当て業務的になっているところが多いと感じる ・地区での開催においては、レベルの向上を目的にしているが、指導力に不安を感じている
	看護研修指導者の育成（3）	・看護研究指導者の育成 ・看護研究指導者のネットワークづくり
	看護研究より実践報告が多い(2)	・看護研究というより、実践報告に近いものが多い ・論文発表ではハードルが高すぎるので、実践報告も発表させてほしいとの意見も出た
	看護研究に取り組む環境づくり(2)	・煩雑化多様化していく医療現場で看護研究の必要性や重要性をいかに伝えていくか ・看護研究が現場で根づく環境づくり（負担感の改善）
	看護職の看護研究を実施する力の向上(2)	・看護職の看護研究に関する実力の向上 ・看護研究の質の向上
応募演題・参加者の減少(7)	応募演題が減少(2)	・演題応募が少ない ・演題登録数、論文登録数を増やすこと
	実践報告を入れても応募演題が少ない(1)	・実践報告も受け付けているが投稿数が増えていない
	全国学会・専門学会へ応募による県学会応募の減少(3)	・県協会や支部などの学会発表は既発表の取り扱いの関係で少なくなる一方である ・自主的に取り組んだ臨床看護研究は専門の学会、全国の学会に応募する人が増え、県学会への応募は減少 ・今までは院内で研究発表し、その後県学会へ、その後各々の専門学会へと概ね考えていたが、早くから専門学会への投稿がされている
	県学会へ参加のメリットが少ない(1)	・自分の専門分野の発表が少ない、他職種の参加がない等、県の看護学会参加のメリットが少ないという意見
査読方法の検討(6)	査読というより指導を要する(3)	・査読が査読というより指導になってしまう ・出されたもののレベルがバラバラで細かい指導が必要なものが多々ある ・学会委員会は抄録選考の役割であるが、査読・指導する傾向にある
	原稿作成不備が多い(1)	・集録原稿の作成方法は協会ホームページで案内しているが、作成に不備がみられるものが多く、県内病院への周知が課題
	修正コメントによる投稿者の意欲低下(1)	・修正コメントが多く、投稿者の意欲低下の声が聞かれる
	査読規定の改正(1)	・査読規定の見直し
学会運営方法(6)	赤字開催にならないように運営(2)	・経済的負担 ・赤字開催のため、外部会場から協会会館に変更した
	査読者への謝礼（１）	・査読者への謝礼
	参加者を収容できる会場の確保(2)	・県内に多人数が参加できる施設が少なく、外部会場の確保が困難 ・会場の大きさや駐車場の有無
	講師選定(1)	・毎年講師選びに苦慮
倫理的事項を含む募集要項の整備(5)	倫理的配慮に関する取り決めの整合性(4)	・倫理的配慮に関する不統一 ・日本看護協会の倫理的配慮に準じているが、解釈がまちまちである。(学会委員会と施設の指導者) ・オプトアウトの扱い ・倫理に関して、倫理委員会があるかどうか施設ごとに違い、その取扱い方が課題
	募集要項の見直し(1)	・募集要項の見直しが遅れている
学会委員の意識と負担感(4)	学会委員の意識と負担感(4)	・学会運営、設営の協会内や教育役員への負担 ・学会委員会の意識 ・協会の方向性に納得していない委員がいる ・学会委員会とは別にあった査読部会を統合した弊害
学会のあり方や今後の方向性の検討(3)	学会のあり方や今後の方向性の検討(3)	・学会の運営等は看護研究執行委員会を設置し活動してきたが、単年度の活動であり長期的 なスパンで看護研究のあり方を見据えた継続性のある審議を行うには十分な活動ができていない ・あり方や今後の方向性を再検討する時期 ・時間・費用・人的資源を活用しながら時代の流れとともに環境も変化している
県学会と支部・地方・地方部会主催の研究発表会の位置づけの明確化(2)	県学会と支部・地方・地方部会主催の研究発表会の位置づけの明確化(2)	・県学会の位置づけをどう考えるか ・各支部の研究発表会と県協会の学会発表との棲み分け

2) 今後の方向性

今後の方向性に関する自由記述式回答を分析した結果、8 のカテゴリーが抽出され、多いものから「看護職の研究力の向上のための支援」15、「盛会となるよう内容を検討」8、「研究発表に加えて実践報告と情報・意見交換の場として開催」6 と「応募演題を増やす取り組み」6 が同数、「従来どおり継続」5、「県看護学会と地区・支部・地方部会主催研究発表会の位置づけの明確化」3 と「担当委員会の態勢強化」3 が同数、「会場・開催時期を検討」2 の順であった（表 14)。

表14　今後の方向性

カテゴリー	サブカテゴリー	コードあるいは記述
看護職の研究力の向上のための支援(15)	看護職の研究力の向上のための支援(5)	・看護職の看護研究への支援の場となるよう努める ・研究指導を受けることができる場の設定や人材育成 ・研究に取り組む看護職の質の維持 ・発表演題の質の向上 ・多くの発表する機会がある現在、看護の質向上や発展に寄与することを目的に継続してきた
	学会の形式や内容の改善及び位置づけ(4)	・本協会のビジョンとしては、学術性を重んじる学会としての位置づけ ・県学会は全国学会の前段階として活用してもらう ・今後、委員会としてステップアップを目指し、学会で「看護研究ブース」等、参加者が研究をまとめるにあたっての相談コーナー等を設けていきたい ・学会形式でなく、年間の教育計画と連動した研究発表会とする等、形式や内容の検討が必要
	看護教育研修の充実や大学教員の活用(2)	・実践報告をどのように、研究の視点に変えるかということを、看護研究研修の中で伝えてもらうように講師にお願いしている ・大学教員の指導を受けられることがメリット
	施設の研究指導者の育成の支援(1)	・現場の研究指導者の育成のための研修の企画などを検討している
	中小規模病院、訪問看護ステーション等の看護職の研究力向上の支援(2)	・看護研究指導を受ける機会が得られにくい中小病院、訪問看護ステーション等の看護職員への支援 ・中小規模病院で活躍している看護職に発表の機会を増やす
	各職場で看護研究に取り組む風土づくり(1)	・各職場が看護実践力を向上させるためには、研究や実践報告が必要不可欠であるという風土づくりが大切
盛会になるよう内容を検討(8)	時流に合致した内容の企画(2)	・看護の動向に基づいて学会の企画を行う ・県看護協会・支部においても、その時々のホットな話題を中心の題材を取り上げている
	活気ある学会になるよう内容を検討(1)	・少しずつでも工夫して活気ある学会になるようアイデアを出し合っている
	参加者のニーズに合致した内容を企画(４)	・参加者のニーズに基づいて学会の企画を行う ・参加者の割合が新人～5年目くらいの方が多いので、看護管理者に来ていただけるような企画（セミナー）等の検討 ・若い人たちが興味を持って参加してもらえるようにしたい ・県内の施設への調査も必要
	看護学生の参加を検討（1）	・看護学生の参加について検討
研究発表に加えて実践報告と情報・意見交換の場として開催(6)	研究発表に限定しない発表の場、情報・意見交換の場を提供(4)	・発表の場を提供することで、情報交換や意見交換がもっと活発にできるようにする ・研究の形にとらわれず、症例報告・看護職が実践現場で困っていること・問題に感じていること、創意工夫も含めて幅広い分野の発表にする ・研究発表に限定しないで看護を語る（例：看－看、看－多職種、看－学生・市民など）場や職場紹介などの企画も考えたい ・地方部会で開催している看護研究発表は実践報告が多く情報共有や交流の場となっている
	実践報告の場(2)	・実践報告も規定により査読を受けて発表することも意義がある ・支部発表はより実践報告という内容にスライドしてもよいか
応募演題を増やす取り組み(6)	応募演題を増やす工夫(2)	・応募演題を増やす努力を継続して行う ・今年度演題数が大変少なかったので、今後どのような形で学会を開催すればよいか学会委員会で検討予定 ・本協会看護研究学会にて発表された演題から学術推進委員会推薦による発表が可能となった ・平成29年度より看護研究助成金に「海外発表助成」を新設した
	支部・地区へ演題応募を依頼(3)	・地区での発表演題を県看護研究学会で発表するように地区長会等で働きかけをする ・各支部への協力依頼 ・今後も学会を継続していくが演題募集方法として事前に各病院・施設の看護部長に演題登録のお願いをする
	広報の充実(1)	・広報の充実（12月開催なのに2月の1回しかポスターを配布していない）
従来どおり継続(5)	継続(4)	・学会は継続すべき ・継続すること ・継続していきたい ・看護師の成長を支援するためにも研究発表・実践報告会は継続していく
	支部主催研究発表会のまま継続(1)	・引き続き支部主催の研究発表会とする
県看護学会と支部・地区・地方部会主催研究発表会の位置づけの明確化(3)	県看護学会と地区/支部研究発表会の位置づけの明確化(3)	・県協会の学会は初心者の学会発表の場として位置づけ等、立ち位置の整理をするなどし、方向性を決めたい ・今後研究発表でまとめたものを県看護研究発表学会で発表するなどの方向で整えたい ・支部での学会発表は県協会の学会、県協会の学会は初心者の学会へ集約する
担当委員会の態勢強化(3)	担当委員会の態勢強化(3)	・看護研究実行委員会を看護研究委員会として設置し常任委員会として位置付けた ・学会運営委員会に支部理事に入っていただき共に課題解決していく ・学会委員会、役職員、理事による運営にした
会場・開催時期を検討(2)	県民の参加の促進のための会場選定(1)	・県民に看護職の活動を理解していただくため、昨年より学会会場を外部会場とし、県民が参加しやすいようにした
	参加者を増やすための会場・時期の選定(1)	・交通の利便性、スペース、他団体の催しと同時開催で来場しやすいなど

Ⅴ．総括

1. 回収された 42 協会の回答のうち、40 協会が日本看護学会担当年を除き毎年 1 回学会・研究発表会を開催しており、開催月は 12 月、11 月、3 月、1 月、2 月の順で、年度の後半での開催が多かった。2 協会は過去開催していたが現在は開催していない。うち 1 協会は支部の研究発表会を開催のみへ、残る 1 協会協会は県内の他の組織主催の看護研究会へ移行していた。
2. 都道府県看護協会主催の学会を開催している 40 協会のうち、支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会も開催しているのは 22 協会であった。
3. 都道府県看護協会主催の学会の構成内容として多かったものは「研究口演発表」、「研究示説発表」、「特別講演」が同数で最多であり、次いで「臨床実践口演発表」、「臨床実践示説発表」、「シンポジウム」、「ランチョンセミナー」、「教育講演」、「看護研究に関するミニ講義・相談・支援」であった。さらに「看護協会の活動紹介の展示」、「専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了者による相談コーナー」、「講評」、「看護用具の展示」という記述もみられた。また、支部・地区・地方部会主催の学会・研究発表会の構成内容も「研究口演発表」、「臨床実践口演発表」、「特別講演」、「研究示説発表」が主であったが、「その他」の記述として、都道府県看護協会主催の学会と同様に、「看護研究ミニ講義」や「講評」を行っているところもあった。
4. 近年の演題数の増減傾向では、都道府県看護協会と支部・地区・地方部会ともに「横這い」が多く、次いで「減少」、「年によって変動」との回答も少数みられた。都道府県看護協会では「増加」とする回答はなかったが、支部・地区・地方部会では「増加」が 1 みられた。
5. 演題数が「横這い」および「減少」傾向の要因として最多であったものは「研究発表の場の増加」で、「看護研究実施に向けた意識と支援体制の課題」や「二極化する臨床における看護研究への取組み状況」等もあげられていた。また、少数意見として、「査読が厳しい」「倫理審査が厳しい」もみられた。
6. 演題数を増やす対策として最多であったものは、都道府県看護協会、支部・地区・地方部会とも「広報活動」、次いで「研修・指導の充実」であった。基調講演やランチョンセミナーを設けるなどの「学会内容の工夫・充実」や重複発表を可とするなどの「発表基準の緩和」も対策としてあげられていた。
7. 既発表の取り扱いについては、都道府県看護協会では「所属施設外で発表しているものは全て不可」が最も多く、次いで「他の学会・研究発表会で発表しているものは全て不可だが、本 協会 内の支部・地区・地方部会主催の研究発表会で発表しているものは全て可」であった。一方、支部・地区・地方部会では「規定なし」が最も多く、次いで「他の学会・研究発表会で研究発表として発表しているものも発表可」であった。
8. 担当委員の役割は、都道府県看護協会では、多いものから「特別講演・教育講演の講師を選定」、「司会・進行」と「当日の会場係」が同数、「査読」、「座長選定」と「受付」が同数、「募集活動」、「抄録完成指導」、「査読者選定」、「座長」、「司会者選定」、「講評者選定」、「講評」、「発表スライド作成指導」と「プレゼンテーション指導」が同数、「特別講演・教育講演等の講師」の順で、「その他」の記述の中で多かったものは「広報」であった。支部・地区・地方部会では、多いものから「当日の会場係」、「募集活動」、「受付」と「司会・進行」が同数、「講師の接待」、「査読」、「特別講演・教育講演の講師を選定」と「座長」が同数、「講評者選定」、「抄録完成指導」、「座長選定」、「発表スライド作成指導」と「査読者選定」が同数、他の順であった。
9. 課題として抽出されたものは、多いものから「看護研究への支援と環境づくり」、「応募演題・参加者

の減少」、「査読方法の検討」と「学会運営方法」が同数、「倫理的事項を含む募集要項の整備」、「学会委員の意識と負担感」、「学会のあり方や今後の方向性の検討」、「県学会と支部・地方・地方部会主催の研究発表会の位置づけの明確化」の順であった。

10. 今後の方向性として抽出されたものは、「看護職の研究力の向上のための支援」、「盛会となるよう内容を検討」、「研究発表に加えて実践報告と情報・意見交換の場として開催」と「応募演題を増やす取り組み」が同数、「従来どおり継続」、「県看護学会と地区・支部・地方部会主催研究発表会の位置づけの明確化」と「担当委員会の態勢強化」が同数、「会場・開催時期を検討」の順であった。

引用文献・URL

1）公益社団法人大阪府看護協会：第 5 回大阪府看護学会,
http://www.osaka-kangokyokai.or.jp/CMS/data/img/5th-gakkai-daigakusyoukai.pdf　2018 年 5 月 28 日閲覧

2）公益社団法人長野県看護協会：第 38 回長野県看護研究学会論文集，2018

資料：調査票

本調査への協力のご意向について、下記の□のうち、該当するものいずれか1つに☑をご記入ください。

・依頼文書を読んだうえで、本調査への協力に同意します □ → 下記の質問に上から順にご回答ください。

・本調査への協力に同意しません □ → お時間をいただき、ありがとうございました。

以下の質問について、選択式回答では選択肢のうち該当するものに○を付けてください。その他の場合と自由記述式回答では(　　)内に内容を記入してください。

Q1. 貴協会名と会員数をご記入ください。

協会名（　　）看護協会　　会員数（　　）人

Q2. 貴協会主催の看護研究に関する学会・あるいは研究発表会を開催されていますか？

1) **開催していない　→Q3 へ**
2) **開催している　→　事業名（　　）→Q5 へ**
3) **その他（　　）**

Q3. 以下のうち該当するものはどれですか？

1) **今までに一度も開催したことがない　→Q4へ**
2) **過去に開催していたが、現在は開催していない　→Q4へ**
3) **その他（　　）**

Q4. その理由・経緯はどのようなことですか？

（　　）

Q5. 開催頻度は年に何回ですか？

1） 年 1 回
2） 年 2 回
3） 年 3 回以上
4） その他 （　　）

Q6. 開催時期は何月ですか？

（　　）月　（　　）月　（　　）月　（　　）月　（　　）月

Q7. 学会・研究発表会のプログラムはどのような内容で構成されていますか？

1） 研究の口演発表　2）研究の示説発表　3）臨床実践の口演発表　4）臨床実践の示説発表
5）特別講演　6）教育講演　7）シンポジウム　8）ワークショップ
9）ランチョンセミナー　10）その他

（　　）

Q8. 直近 3 回の一般演題数は口演、示説、各々何題でしたか？

	口演	示説
1）直近	（　　）題	（　　）題
2）1)の前	（　　）題	（　　）題
3）2)の前	（　　）題	（　　）題

Q9. 直近 3 回の参加者数は約何人でしたか？

1） 直近　約 （　　）人

2） 1)の前 約 （　　）人

3） 2)の前 約 （　　）人

Q10. 直近 3 回の一般演題数の推移は以下のどれですか？

1) 増加傾向
2) 横這い傾向
3) 減少傾向
4) その他 （　　）

Q11. その要因はどのようなことだとお考えですか？

（　　）

Q12. 演題を増やすための対策をとられていますか？
1) はい　→ Q13
2) いいえ → Q14

Q13. どのような対策をとられていますか？

（　　）

Q14. 発表抄録はどのような形をとられていますか？
1) 国際標準逐次刊行物番号(ISSN)付きの刊行物
2) ISSN なしの製本
3) 手刷りの印刷物
4) その他 （　　）

Q15. 学会・研究発表会の参加費はいくらですか。

会員	1)無料　2)有料（事前登録:　　円 / 当日参加:　　円）
非会員	1)無料　2)有料（事前登録:　　円 / 当日参加:　　円）
学生	1)無料　2)有料（事前登録:　　円 / 当日参加:　　円）

Q16. 貴協会主催の学会・研究発表会における既発表に関する取扱いは下記のどれですか？該当するもの１つに〇を付けてください。

1) 発表者の所属施設外で発表しているものは(研究発表も実践報告も)全て、発表不可としている
2) 発表者の所属施設外で“研究発表”として発表しているものは 発表不可（実践報告は発表可)としている
3) 他の学会・研究発表会で発表してい るもの（研究発表も実践報告も)は 全て 不可だが、本協会内の 支部/地区/地方部会主催の研究発表会で 発表しているものは（研究発表も実践報告も)全て 可としている（支部/地区/地方部会で学会・研究発表会を開催している協会のみ）
4) 他の学会・研究会で発表してい るもの（研究発表も実践報告も)は 全て 不可だが、本協会内の 支部/地区/地方部会主催の研究発表会で“研究発表”として 発表しているものは発表不可（実践報告は発表可)としている（支部/地区/地方部会で学会・研究発表会を開催している協会のみ）
5) 他の学会・研究発表会で “研究発表”として 発表しているものも発表可としている
6) 特に規定を設けていない
7) その他

（　　）

Q17. 学会・研究発表会の企画・運営を担当する委員会の名称と委員の人数、役割についてお伺いします。

1) 担当委員会名（　　）　人数（　　）人

2) 役割について以下のうち該当するもの全てに〇を付けてください。（複数回答可）

① 演題の募集活動　② 査読　③ 委員以外で査読者を選定
④ 発表までの抄録完成指導　⑤ 発表スライド作成指導　⑥ プレゼンテーションの指導
⑦ 会当日の座長　⑧ 委員以外で座長を選定　⑨ 会当日の講評
⑩ 委員以外で講評者を選定　⑪ 司会・進行　⑫ 委員以外で司会者を選定
⑬ 特別講演・教育講演等の講師　⑭ 特別講演・教育講演等の講師の選定　⑮ 講師の接待
⑯ 演題・参加者を増やすための PR 活動　⑰ 会場の設営　⑱ 当日の会場係
⑲ 受付　⑳ その他

（　　）

Q18. 貴協会の支部/地区/地方部会は何か所ありますか？

（　　）か所

Q19. 支部/地区/地方部会主催の研究発表会あるいは実践発表会を開催されていますか？

1) はい　→事業名（　　）→Q20 へ

2) いいえ　→Q33 へ

Q20. 何か所の支部/地区/地方部会で研究発表会あるいは実践発表会を開催していますか？

（　　）か所

Q21. 研究発表会あるいは実践発表会のプログラムはどのような内容で構成されていますか？

1） 研究の口演発表　2）研究の示説発表　3）臨床実践の口演発表　4）臨床実践の示説発表
5）特別講演　6）教育講演　7）シンポジウム　8）ワークショップ
9）ランチョンセミナー　10）その他

（　　）

Q22. 支部/地区/地方部会での直近 3 回の一般演題数は全支部/地区/地方部会で合計何題でしたか？

	口演	示説
1）直近	（　　）題	（　　）題
2）1)の前	（　　）題	（　　）題
3）2)の前	（　　）題	（　　）題

Q23. 直近 3 回の参加者人数は全支部/地区/地方部会で合計約何人でしたか？

1） 直近　約（　　）人

2） 1)の前　約（　　）人

3） 2)の前　約（　　）人

Q24. 直近 3 回の演題数の推移は以下のどれですか？

1）　増加傾向
2）　横這い傾向
3）　減少傾向
4）　その他

（　　）

Q25. その要因はどのようなことだとお考えですか？

（　　）

Q26. 演題数を増やすための対策をとられていますか？

1) はい　→ Q27 へ
2) いいえ → Q28 へ

Q27. どのような対策をとられていますか？

（　　）

Q28. 発表抄録はどのような形をとられていますか？

1) 国際標準逐次刊行物番号(ISSN)付きの刊行物
2) ISSN なしの製本
3) 手刷りの印刷物
4) その他（　　）

Q29. 支部/地区/地方部会主催の研究発表会あるいは実践発表会の参加費はいくらですか。

会員	1)無料　2)有料（事前登録:　　円 / 当日参加:　　円)
非会員	1)無料　2)有料（事前登録:　　円 / 当日参加:　　円)
学生	1)無料　2)有料（事前登録:　　円 / 当日参加:　　円)

Q30. 支部/地区/地方部会主催の研究発表会あるいは実践報告会における 既発表に関する取扱い は下記のどれですか？該当するもの１つに○を付けてください。

1) 施設外発表しているものは(研究発表も実践報告も)全て、発表不可としている
2) 発表者の所属施設外で“研究発表”として発表しているものは 発表不可（実践報告は発表可)としている
3) 他の学会・研究発表会で “研究発表”として 発表しているものも発表可としている
4) 特に規定を設けていない
5) その他

（　　）

Q31. 支部/地区/地方部会主催の学会・研究発表会あるいは実践発表会の企画・運営を担当する委員会の名称と委員の人数、役割についてお伺いします。

1) 担当委員会名（　　）　人数（　　）人

Q32. 役割について、以下のうち該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可）

① 演題の募集活動　② 査読　③ 委員以外で査読者を選定
④ 発表までの抄録完成指導　⑤ 発表スライド作成指導　⑥ プレゼンテーションの指導
⑦ 会当日の座長　⑧ 委員以外で座長を選定　⑨ 会当日の講評
⑩ 委員以外で講評者を選定　⑪ 司会・進行　⑫ 委員以外で司会者を選定
⑬ 特別講演・教育講演等の講師　⑭ 特別講演・教育講演等の講師の選定　⑮ 講師の接待
⑯ 演題・参加者を増やすための PR 活動　⑰ 会場の設営　⑱ 当日の会場係
⑲ 受付　⑳ その他

（　　）

Q33. 都道府県看護協会あるいは支部/地区/地方部会が主催する学会・研究発表会の今後の方向性や課題等、どのようなことでもご記入ください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。
添付の返信用封筒に入れ、速やかにご返送ください。

全国の都道府県看護協会が主催する学会・研究発表会の開催状況と課題に関する調査
報告書

公益社団法人　岡山県看護協会　会長　宮田　明美

学会委員会　委員長・都道府県看護協会調査班　班長　杉浦　絹子
委員・都道府県看護協会調査班　班員　土器　悦子
木下　照子
目良　宣子

看護研修センター長　芳賀　佳子
常務理事　武田　利惠

発行：平成 30 年 11 月
発行所：公益社団法人　岡山県看護協会

〒700-0805　岡山県岡山市北区兵団 4-39
Tel/Fax：086-221-7223/086-221-7236
Email：mail@nurse.okayama.okayama.jp

【非売品】無断転載を禁止します